

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500810
法人名	はぴねす福祉会
事業所名	グループホームおてだま
所在地	愛媛県新居浜市若水町1丁目9-13
自己評価作成日	平成 21 年 9 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 10 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の趣味活動(刺し子、布袋、ランチョンマット作成、短歌創作、絵画作成など)に積極的に取り組めるような環境を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商店街の中に立地する大きなビルの総合福祉施設の一画にあり、防犯及び安全管理面や福祉資源の活用等において同法人の他事業所と連携が図られている。ホーム開設から7年が経過し、ゆったりとした時間の中で、利用者にとっても職員にとっても落ち着いた「マイホーム」が築かれている。ビルという環境の中であっても、ベランダを活用して様々な草花や野菜を栽培するなど、自然とふれあえる工夫をしている。通りを挟んですぐの総合病院と医療連携体制を整えており、健康管理においても安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームおてだま

(ユニット名) 紙ふうせん

記入者(管理者)

氏名 田坂愛子

評価完了日 21年 9月 30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「地域の中に」を理念に掲げ、ことあるごとに(カンファレンス、GH内研修など)理念を意識した話し合いを行っている。	
			(外部評価) 『一人ひとりに寄り添って、その人らしく生き生きと、地域との繋がりを大切に!』というわかりやすい理念を職員全員で作り上げることで、共有し日常生活の中で活かしていこうという意欲につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、外部から入りにくいということがあるが、毎日近隣の店に買い物に行ったり、美容室を利用したり、地域の運動会、文化祭などに参加している。	
			(外部評価) ショッピングモールを改造したビルは商店街の真ん中に位置しており、ビルの玄関を一步出るとご近所づきあいの残る地域の雰囲気をもっている。食材の買い物には毎日利用者と共に出かけ、商店街の通りにある憩いのスペースで近所の方とおしゃべりして過ごすなど、顔なじみのお付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症について自治会で話をしたり、キャラバンメイトに参加し地域にでかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 会議の都度意見交換、話し合いを行ない、サービス向 上に生かしている。	地域の自主防災組織や消防団、民生児童委員等、地域 のキーパーソンとなる方々をメンバーに加え、より多 彩な意見交換ができるような工夫を期待したい。また、意見交換のみに留まらず、ホームが地域における 福祉の発信・推進役となり、会議を通して地域の福祉 力の向上に寄与していくよう取り組むことも期待した い。
			(外部評価) 定期的開催し、行事報告のみでなく各々の立場で気 軽に思いを話し合っている。少しずつではあるが地域 の情報も入ってくるようになり、地域の行事に参加で きるようになってきているが、地元から参加しても らっているメンバーは自治会長と婦人部のみである。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 疑問点、問題点などがあれば、市の担当者と話し合い 対応を協議している。	
			(外部評価) 利用者の状況やニーズを伝え、業務連絡や相談等を密 に行うことで、市担当者とは協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、電子ロックあり、施 錠解除については検討を重ねている。	
			(外部評価) ビル全体で電子ロックのシステムを採っているが、利 用者の要望を汲み取って自由に外出できるよう配慮し ている。管理者及び職員は、拘束をしないケアの大切 さを十分理解しており、職員会においても常に話し合 い注意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、学習会をするなどして、虐待の防止に努めている。「言葉かけ」においても精神的虐待になっていないか注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 学習する機会は設けたが具体的な事例はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行ない、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから意見や要望を考察し、家族にも自由に意見を求めている。それをカンファレンスなどに反映させている。  (外部評価) 利用者及び家族にも運営推進会議に参加してもらい、意見や要望を気がねなく話してもらえるよう心がけている。来訪時には個別に顔を合わせて会話できるよう配慮し、また個別に手紙を出して利用者の状態を伝え、要望を返してもらうようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ意見提言を聞いている。なるべく反映できるようにしているが、十分とは言えない。  (外部評価) ケース会議やカンファレスとは別に職員会を月1回開催し、運営について管理者と職員で話し合う機会をもつようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めているように思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に外部の研修や内部研修を受けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に参加している。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時には少しでも本人の不安を取り除くようにし、本人の状態把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時や面会時に、家族の心配事、希望などを十分に時間をかけて聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い状況を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ともに生活をする人」として、得意な事を教えてもらったり、ともに楽しみ、支えあう関係づくりをこころがけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が疎遠な場合、できるだけかわりをお願いしたり、本人の情報を賓回に伝えたり、ともに支援していくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や商店を利用したり、家族や友人の訪問が出来やすいように配慮している。  (外部評価) 個々の要望に応えるため、各ユニットが協力し、2～3人ずつにわかれて馴染みの店での買い物や希望の物品の購入等ができるよう支援している。また、以前から利用している美容室へ出かけたり、自宅周辺に出かけて以前付き合いのあった方と交流できるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係に常に注意を払い、「共に暮らす」暮らしを意識しながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所して以降も家族も相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？ということを中心に考えながら、会話の中、表情などから、推し量るようにしている。	
			(外部評価) 家族から詳細に聞き取ることでアセスメントシートを充実させるとともに、日々の生活の中で利用者の話を聞き、行動からも意向をつかむように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの聞き取り等から把握している。生活アセスメントシートに記入していただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握に努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いなが ら、ケアプランを作成している。	
			(外部評価) 利用者ごとの担当職員がアセスメントシートや申し送 りノート、家族の話等から意見を把握し、個別のケ ース記録に記載された評価を参考にしながら介護計画の 素案を立て、全職員のカンファレンスで検討し、具体 的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 個別のケース記録は介護計画をもとに記録し、「気づ き」に重点をおいている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の希望により、受診介助や買い物、お墓参 りなど柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 図書館や美術館を利用したり、地域の文化祭などに参 加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行し ている。  (外部評価) かかりつけ医との連携を密にするため、受診の際は家 族と共に職員が同行し、適切な医療が受けられるよう 配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日の健康状態を把握し、異常があれば看護師に相談 している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合は、頻回に面会に行き、常に医療関係者 や家族と早期退院にむけて調整している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 1名であるが「看取り」に取り組んだ。  (外部評価) 重度化及び終末期の方針については、利用開始時に本 人及び家族にホームとしてできることを説明し、了承 を得ている。検討が必要になった時点で本人及び家族 の意向や意思を確認し、方針を共有して支援してい る。	本人及び家族、医師、管理者が話し合うのは勿論であ るが、職員も方針を共有し、チームとして思いをひと つにして安心して看取りに取り組めるよう、関係者が 一同に会して話し合いや研修を繰り返し行うことが望 ましい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習や緊急時の対応を訓練している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の協力で避難訓練を行っている。  (外部評価) 消防署の指導により、ビル（法人）全体で年2回避難訓練を実施している。	全職員が課題意識を持って災害時の体制整備や対応等に取り組むために、ホーム独自でも主体的に検討を続けることが求められる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会やケース会などで常に「言葉使い」に関しては、注意喚起している。プライバシーに関してもことあるごとに検討している。  (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりを人生の先輩として、人格を尊重して気持ちの良い言葉遣いをしている。書類、記録類は適切に整理して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個人の趣味や好みなどを聞きながら、利用者の決定を尊重していくように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりの状況に合わせて柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の更衣時に好みの服を整えたり、外出時はおしゃれを楽しむよう支援している。行きつけの美容院などを利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みのものを献立にいかし、買い物、調理、盛り付け、片付けなど利用者と一緒に行っている。同じ食卓に向かい合いながら、楽しく食事できる雰囲気を作っている。	
			(外部評価) 昼食は、食材の買い出しから下ごしらえ、調理、配膳、片付けまで、できることをしてもらいながら利用者と職員が一緒にしている。朝食と夕食は法人の厨房で調理された食事が届き、できるだけ利用者に寄り添う時間を持てるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分摂取量などの記録をとりながら、体調を観察して、一人ひとりに応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表を記入しパターンを把握し、適切な誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄記録表を活用して、個別の排泄パターンに応じた声かけや誘導を行うことで、尿取りパッドやリハビリパンツを利用している利用者でも可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成し、状態を把握しながら食事の内容を検討し、水分補給にも気をつけながら、身体を動かすような支援をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) なるべく一人ひとりの希望に沿うように入浴支援をしている。	
			(外部評価) 日中は3～4人の職員が勤務しているため、いつでも入浴できるよう風呂は毎日涌かしており、希望に応じて適切な支援を行えるよう努めている。利用者は全員女性で、仲の良い利用者同士と一緒に入浴することもある。利用者は入浴を楽しんでおり、長風呂で出てもらうのに声かけが必要な方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動性をあげるようにし、穏やかな就寝にむけて支援している。表情や態度を見ながら休息を促がしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケースごとに整理して職員が分かりやすいようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験などを生かしてもらえるような行事、役割などを作り支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できるだけ外出要求に応えながら、希望する場所によっては家族の支援を呼びかけたりしているが、十分とはいえないかもしれない。	
			(外部評価) 広々とした屋上を利用して、散歩やベンチでの茶話会等を楽しんでいる。買い物は日課となっており、美容室や喫茶店の利用や外食も頻繁に行っている。家族の協力も得て、墓参りや昔なじみの友人とおしゃべりに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望、力量に応じてお金を所持し使っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れしつらえを工夫している。	
			(外部評価) 居間、廊下、食堂ともにゆったりとしたスペースがあり、テーブルやソファの配置にも居場所を意識した工夫がみられる。中庭ロビーには卓球台やピアノも置かれ、利用者それぞれの好みに合わせた過ごし方ができる空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室や中庭を利用している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。	
			(外部評価) 利用者の好みによって、仏壇、机、ソファ、たんす、手芸品、写真、花などが持ち込まれている。各居室には洗面台があり、また多くの居室に洋式トイレがあり、利便性も高く安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 何が障害となっているかを見極めて、出来る力を維持するような環境を整えている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500810
法人名	はぴねす福祉会
事業所名	グループホームおてだま
所在地	愛媛県新居浜市若水町1丁目9-13
自己評価作成日	平成 21 年 9 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 10 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街の中にあるので、地域のお店を利用できやすく、顔なじみになれるように毎日出かけている。ビルの4階にあるが、ベランダで野菜、花などを育て楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商店街の中に立地する大きなビルの総合福祉施設の一画にあり、防犯及び安全管理面や福祉資源の活用等において同法人の他事業所と連携が図られている。ホーム開設から7年が経過し、ゆったりとした時間の中で、利用者にとっても職員にとっても落ち着いた「マイホーム」が築かれている。ビルという環境の中であっても、ベランダを活用して様々な草花や野菜を栽培するなど、自然とふれあえる工夫をしている。通りを挟んですぐの総合病院と医療連携体制を整えており、健康管理においても安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームおてだま

(ユニット名) 風ぐるま

記入者(管理者)  
氏名 田坂愛子

評価完了日 21年 9月 30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「地域の中に」を理念に掲げ、ことあるごとに（カンファレンス、GH内研修など）理念を意識した話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 『一人ひとりに寄り添って、その人らしく生き生きと、地域との繋がりを大切に！』というわかりやすい理念を職員全員で作り上げることで、共有し日常生活の中で活かしていこうという意欲につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、外部から入りにくいということがあるが、毎日近隣の店に買い物に行ったり、美容室を利用したり、地域の運動会、文化祭などに参加している。</p> <p>(外部評価) ショッピングモールを改造したビルは商店街の真ん中に位置しており、ビルの玄関を一步出るとご近所づきあいの残る地域の雰囲気をもっている。食材の買い物には毎日利用者と共に出かけ、商店街の通りにある憩いのスペースで近所の方とおしゃべりして過ごすなど、顔なじみのお付き合いをしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症について自治会で話をしたり、キャラバンメイトに参加し地域にでかけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 会議の都度意見交換、話し合いを行ない、サービス向 上に生かしている。	地域の自主防災組織や消防団、民生児童委員等、地域 のキーパーソンとなる方々をメンバーに加え、より多 彩な意見交換ができるような工夫を期待したい。また、意見交換のみに留まらず、ホームが地域における 福祉の発信・推進役となり、会議を通して地域の福祉 力の向上に寄与していくよう取り組むことも期待した い。
			(外部評価) 定期的開催し、行事報告のみでなく各々の立場で気 軽に思いを話し合っている。少しずつではあるが地域 の情報も入ってくるようになり、地域の行事に参加で きるようになってきているが、地元から参加しても らっているメンバーは自治会長と婦人部のみである。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 疑問点、問題点などがあれば、市の担当者と話し合い 対応を協議している。	
			(外部評価) 利用者の状況やニーズを伝え、業務連絡や相談等を密 に行うことで、市担当者とは協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、電子ロックあり、施 錠解除については検討を重ねている。	
			(外部評価) ビル全体で電子ロックのシステムを採っているが、利 用者の要望を汲み取って自由に外出できるよう配慮し ている。管理者及び職員は、拘束をしないケアの大切 さを十分理解しており、職員会においても常に話し合 い注意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、学習会をするなどして、虐待の防止に努めている。「言葉かけ」においても精神的虐待になっていないか注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 該当する利用者がいたが、まだ十分に活用できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行ない、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから意見や要望を考察し、家族にも自由に意見を求めている。それをカンファレンスなどに反映させている。  (外部評価) 利用者及び家族にも運営推進会議に参加してもらい、意見や要望を気がねなく話してもらえるよう心がけている。来訪時には個別に顔を合わせて会話できるよう配慮し、また個別に手紙を出して利用者の状態を伝え、要望を返してもらうようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ意見提言を聞いている。なるべく反映できるようにしているが、十分とは言えない。  (外部評価) ケース会議やカンファレスとは別に職員会を月1回開催し、運営について管理者と職員で話し合う機会をもつようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めているように思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に外部の研修や内部研修を受けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に参加している。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時には少しでも本人の不安を取り除くようにし、本人の状態把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時や面会時に、家族の心配事、希望などを十分に時間をかけて聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い状況を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ともに生活をする人」として、得意な事を教えてもらったり、ともに楽しみ、支えあう関係づくりをこころがけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が疎遠な場合、できるだけかわりをお願いしたり、本人の情報を賓回に伝えたり、ともに支援していくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や商店を利用したり、友人を訪ねたり、訪問が出来るように支援している。  (外部評価) 個々の要望に応えるため、各ユニットが協力し、2～3人ずつにわかれて馴染みの店での買い物や希望の物品の購入等ができるよう支援している。また、以前から利用している美容室へ出かけたり、自宅周辺に出かけて以前付き合いのあった方と交流できるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係に常に注意を払い、「共に暮らす」暮らしを意識しながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所して以降も家族も相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？ということを中心に考えながら、会話の中、表情などから、推し量るようにしている。	
			(外部評価) 家族から詳細に聞き取ることでアセスメントシートを充実させるとともに、日々の生活の中で利用者の話を聞き、行動からも意向をつかむように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの聞き取り等から把握している。生活アセスメントシートに記入していただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いながら、ケアプランを作成している。	
			(外部評価) 利用者ごとの担当職員がアセスメントシートや申し送りノート、家族の話等から意見を把握し、個別のケース記録に記載された評価を参考にしながら介護計画の素案を立て、全職員のカンファレンスで検討し、具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケース記録は介護計画をもとに記録し、「気づき」に重点をおいている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の希望により、受診介助や買い物、お墓参りなど柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 図書館や美術館を利用したり、地域の文化祭などに参加している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行し ている。  (外部評価) かかりつけ医との連携を密にするため、受診の際は家 族と共に職員が同行し、適切な医療が受けられるよう 配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日の健康状態を把握し、異常があれば看護師に相談 している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合は、頻回に面会に行き、常に医療関係者 や家族と早期退院にむけて調整している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 今までは対象となる利用者はいなかったが、ニーズが あれば対応できる。  (外部評価) 重度化及び終末期の方針については、利用開始時に本 人及び家族にホームとしてできることを説明し、了承 を得ている。検討が必要になった時点で本人及び家族 の意向や意思を確認し、方針を共有して支援してい る。	本人及び家族、医師、管理者が話し合うのは勿論であ るが、職員も方針を共有し、チームとして思いをひと つにして安心して看取りに取り組めるよう、関係者が 一同に会して話し合いや研修を繰り返し行うことが望 ましい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習や緊急時の対応を訓練している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の協力で避難訓練を行っている。  (外部評価) 消防署の指導により、ビル（法人）全体で年2回避難訓練を実施している。	全職員が課題意識を持って災害時の体制整備や対応等に取り組むために、ホーム独自でも主体的に検討を続けることが求められる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会やケース会などで常に「言葉使い」に関しては、注意喚起している。プライバシーに関してもことあるごとに検討している。  (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりを人生の先輩として、人格を尊重して気持ちの良い言葉遣いをしている。書類、記録類は適切に整理して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個人の趣味や好みなどを聞きながら、利用者の決定を尊重していくように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりの状況に合わせて柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の更衣時に好みの服を整えたり、外出時はおしゃれを楽しむよう支援している。行きつけの美容院などを利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みのものを献立にいかし、買い物、調理、盛り付け、片付けなど利用者と一緒に行っている。同じ食卓に向かい合いながら、楽しく食事できる雰囲気を作っている。	
			(外部評価) 昼食は、食材の買い出しから下ごしらえ、調理、配膳、片付けまで、できることをしてもらいながら利用者と職員が一緒にしている。朝食と夕食は法人の厨房で調理された食事が届き、できるだけ利用者に寄り添う時間をとるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分摂取量などの記録をとりながら、体調を観察して、一人ひとりに応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表を記入しパターンを把握し、適切な誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄記録表を活用して、個別の排泄パターンに応じた声かけや誘導を行うことで、尿取りパッドやリハビリパンツを利用している利用者でも可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成し、状態を把握しながら食事の内容を検討し、水分補給にも気をつけながら、身体を動かすような支援をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夜間入浴は出来ていないが、なるべく一人ひとりの希望に沿うように入浴支援をしている。	
			(外部評価) 日中は3～4人の職員が勤務しているため、いつでも入浴できるよう風呂は毎日涌かしており、希望に応じて適切な支援を行えるよう努めている。利用者は全員女性で、仲の良い利用者同士と一緒に入浴することもある。利用者は入浴を楽しんでおり、長風呂で出てもらうのに声かけが必要な方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動性をあげるようにし、穏やかな就寝にむけて支援している。表情や態度を見ながら休息を促がしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケースごとに整理して職員が分かりやすいようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味や経験などを生かしてもらえるような行事、役割などを作り支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できるだけ外出要求に応えながら、希望する場所によっては家族の支援を呼びかけたりしているが、十分とはいえないかもしれない。	
			(外部評価) 広々とした屋上を利用して、散歩やベンチでの茶話会等を楽しんでいる。買い物は日課となっており、美容室や喫茶店の利用や外食も頻繁に行っている。家族の協力も得て、墓参りや昔なじみの友人とおしゃべりに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望、力量に応じてお金を所持し使っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れしつらえを工夫している。	
			(外部評価) 居間、廊下、食堂ともにゆったりとしたスペースがあり、テーブルやソファの配置にも居場所を意識した工夫がみられる。中庭ロビーには卓球台やピアノも置かれ、利用者それぞれの好みに合わせた過ごし方ができる空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室を利用したり、ソファを使用したりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。	
			(外部評価) 利用者の好みによって、仏壇、机、ソファ、たんす、手芸品、写真、花などが持ち込まれている。各居室には洗面台があり、また多くの居室に洋式トイレがあり、利便性も高く安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 何が障害となっているかを見極めて、出来る力を維持するような環境を整えている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500810
法人名	はぴねす福祉会
事業所名	グループホームおてだま
所在地	愛媛県新居浜市若水町1丁目9-13
自己評価作成日	平成 21 年 9 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 10 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街の中にある為、毎日近隣の店を利用している。ベランダで花や野菜を育て収穫を楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商店街の中に立地する大きなビルの総合福祉施設の一画にあり、防犯及び安全管理面や福祉資源の活用等において同法人の他事業所と連携が図られている。ホーム開設から7年が経過し、ゆったりとした時間の中で、利用者にとっても職員にとっても落ち着いた「マイホーム」が築かれている。ビルという環境の中であっても、ベランダを活用して様々な草花や野菜を栽培するなど、自然とふれあえる工夫をしている。通りを挟んですぐの総合病院と医療連携体制を整えており、健康管理においても安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームおてだま

(ユニット名) 竹とんぼ

記入者(管理者)  
氏名 田坂愛子

評価完了日 21 年 9 月 30 日



(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「地域の中に」を理念に掲げ、ことあるごとに（カンファレンス、GH内研修など）理念を意識した話し合いを行っている。	
			(外部評価) 『一人ひとりに寄り添って、その人らしく生き生きと、地域との繋がりを大切に！』というわかりやすい理念を職員全員で作り上げることで、共有し日常生活の中で活かしていこうという意欲につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、外部から入りにくいということがあるが、毎日近隣の店に買い物に行ったり、美容室を利用したり、地域の運動会、文化祭などに参加している。	
			(外部評価) ショッピングモールを改造したビルは商店街の真ん中に位置しており、ビルの玄関を一步出るとご近所づきあいの残る地域の雰囲気をもっている。食材の買い物には毎日利用者と共に出かけ、商店街の通りにある憩いのスペースで近所の方とおしゃべりして過ごすなど、顔なじみのお付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症について自治会で話をしたり、キャラバンメイトに参加し地域にでかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 会議の都度意見交換、話し合いを行ない、サービス向 上に生かしている。	地域の自主防災組織や消防団、民生児童委員等、地域 のキーパーソンとなる方々をメンバーに加え、より多 彩な意見交換ができるような工夫を期待したい。また、意見交換のみに留まらず、ホームが地域における 福祉の発信・推進役となり、会議を通して地域の福祉 力の向上に寄与していくよう取り組むことも期待した い。
			(外部評価) 定期的開催し、行事報告のみでなく各々の立場で気 軽に思いを話し合っている。少しずつではあるが地域 の情報も入ってくるようになり、地域の行事に参加で きるようになってきているが、地元から参加しても らっているメンバーは自治会長と婦人部のみである。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 疑問点、問題点などがあれば、市の担当者とは話し合い 対応を協議している。	利用者の状況やニーズを伝え、業務連絡や相談等を密 に行うことで、市担当者とは協力関係を築いている。
			(外部評価)	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所がビルの4階にあるため、電子ロックあり、施 錠解除については検討を重ねている。	ビル全体で電子ロックのシステムを採っているが、利 用者の要望を汲み取って自由に外出できるよう配慮し ている。管理者及び職員は、拘束をしないケアの大切 さを十分理解しており、職員会においても常に話し合 い注意している。
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加したり、学習会をするなどして、虐待の防止に努めている。「言葉かけ」においても精神的虐待になっていないか注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 該当する利用者がいたが、まだ十分に活用できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行ない、退去時にも同様にし、関係者の理解を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉、態度などから意見や要望を考察し、家族にも自由に意見を求めている。それをカンファレンスなどに反映させている。	
			(外部評価) 利用者及び家族にも運営推進会議に参加してもらい、意見や要望を気がねなく話してもらえるよう心がけている。来訪時には個別に顔を合わせて会話できるよう配慮し、また個別に手紙を出して利用者の状態を伝え、要望を返してもらうようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 折に触れ意見提言を聞いている。なるべく反映できるようにしているが、十分とは言えない。  (外部評価) ケース会議やカンファレスとは別に職員会を月1回開催し、運営について管理者と職員で話し合う機会をもつようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めているように思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に外部の研修や内部研修を受けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互評価への参加や地区のグループホーム研修会に参加している。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時には少しでも本人の不安を取り除くようにし、本人の状態把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時や面会時に、家族の心配事、希望などを十分に時間をかけて聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族と話し合い状況を見極めてサービス利用の紹介、対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「ともに生活をする人」として、得意な事を教えてもらったり、ともに楽しみ、支えあう関係づくりをこころがけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が疎遠な場合、できるだけかわりをお願いしたり、本人の情報を賓回に伝えたり、ともに支援していくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室や商店を利用したり、家族の訪問が出来るように支援している。  (外部評価) 個々の要望に応えるため、各ユニットが協力し、2～3人ずつにわかれて馴染みの店での買い物や希望の物品の購入等ができるよう支援している。また、以前から利用している美容室へ出かけたり、自宅周辺に出かけて以前付き合いのあった方と交流できるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係に常に注意を払い、「共に暮らす」暮らしを意識しながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所して以降も家族も相談にのったり、移転先の他事業所に面会に行ったりしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人にとってどうなのか？ということを中心に考えながら、会話の中、表情などから、推し量るようにしている。	
			(外部評価) 家族から詳細に聞き取ることでアセスメントシートを充実させるとともに、日々の生活の中で利用者の話を聞き、行動からも意向をつかむように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの聞き取り等から把握している。生活アセスメントシートに記入していただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録表や日々の様子から、ひとりひとりの現状把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 家族や本人の意見を聞き、ケース会で話し合いなが ら、ケアプランを作成している。	
			(外部評価) 利用者ごとの担当職員がアセスメントシートや申し送 りノート、家族の話等から意見を把握し、個別のケー ス記録に記載された評価を参考にしながら介護計画の 素案を立て、全職員のカンファレンスで検討し、具体 的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 個別のケース記録は介護計画をもとに記録し、「気づ き」に重点をおいている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の希望により、受診介助や買い物、など柔 軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 盆踊りや地域の文化祭などに参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者各自に主治医がおり、受診の時は職員が同行し ている。</p> <p>(外部評価) かかりつけ医との連携を密にするため、受診の際は家 族と共に職員が同行し、適切な医療が受けられるよう 配慮している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 毎日の健康状態を把握し、異常があれば看護師に相談 している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した場合は、頻回に面会に行き、常に医療関係者 や家族と早期退院にむけて調整している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 今までは対象となる利用者はいなかったが、ニーズが あれば対応できる。</p> <p>(外部評価) 重度化及び終末期の方針については、利用開始時に本 人及び家族にホームとしてできることを説明し、了承 を得ている。検討が必要になった時点で本人及び家族 の意向や意思を確認し、方針を共有して支援してい る。</p>	<p>本人及び家族、医師、管理者が話し合うのは勿論であ るが、職員も方針を共有し、チームとして思いをひと つにして安心して看取りに取り組めるよう、関係者が 一同に会して話し合いや研修を繰り返し行うことが望 ましい。</p>



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習や緊急時の対応を訓練している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の協力で避難訓練を行っている。  (外部評価) 消防署の指導により、ビル（法人）全体で年2回避難訓練を実施している。	全職員が課題意識を持って災害時の体制整備や対応等に取り組むために、ホーム独自でも主体的に検討を続けることが求められる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会やケース会などで常に「言葉使い」に関しては、注意喚起している。プライバシーに関してもことあるごとに検討している。  (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりを人生の先輩として、人格を尊重して気持ちの良い言葉遣いをしている。書類、記録類は適切に整理して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個人の趣味や好みなどを聞きながら、利用者の決定を尊重していくように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 大まかな一日の流れはあるが、一人ひとりの状況に合わせて柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の更衣時に好みの服を整えたり、外出時はおしゃれを楽しむよう支援している。行きつけの美容院などを利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みものを献立にいかし、買い物、調理、盛り付け、片付けなど利用者と一緒に行っている。同じ食卓に向かい合いながら、楽しく食事できる雰囲気を作っている。	
			(外部評価) 昼食は、食材の買い出しから下ごしらえ、調理、配膳、片付けまで、できることをしてもらいながら利用者と職員が一緒にしている。朝食と夕食は法人の厨房で調理された食事が届き、できるだけ利用者寄り添う時間をとるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、水分摂取量などの記録をとりながら、体調を観察して、一人ひとりに応じた支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表を記入しパターンを把握し、適切な誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄記録表を活用して、個別の排泄パターンに応じた声かけや誘導を行うことで、尿取りパッドやリハビリパンツを利用している利用者でも可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録表を作成し、状態を把握しながら食事の内容を検討し、水分補給にも気をつけながら、身体を動かすような支援をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) なるべく一人ひとりの希望に沿うように入浴支援をしている。	
			(外部評価) 日中は3～4人の職員が勤務しているため、いつでも入浴できるよう風呂は毎日涌かしており、希望に応じて適切な支援を行えるよう努めている。利用者は全員女性で、仲の良い利用者同士と一緒に入浴することもある。利用者は入浴を楽しんでおり、長風呂で出てもらうのに声かけが必要な方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動性をあげるようにし、穏やかな就寝にむけて支援している。表情や態度を見ながら休息を促がしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルをケースごとに整理して職員が分かりやすいようにしている。新たな薬の服薬時には、特に状態変化に気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりにあった掃除、調理、洗濯たたみや散歩、歌への参加などの支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できるだけ外出要求に応えながら、希望する場所によっては家族の支援を呼びかけたりしているが、十分とはいえないかもしれない。	
			(外部評価) 広々とした屋上を利用して、散歩やベンチでの茶話会等を楽しんでいる。買い物は日課となっており、美容室や喫茶店の利用や外食も頻繁に行っている。家族の協力も得て、墓参りや昔なじみの友人とおしゃべりに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在お金を所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビング、廊下、和室など季節を取り入れしつらえを工夫している。	
			(外部評価) 居間、廊下、食堂ともにゆったりとしたスペースがあり、テーブルやソファの配置にも居場所を意識した工夫がみられる。中庭ロビーには卓球台やピアノも置かれ、利用者それぞれの好みに合わせた過ごし方ができる空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室を利用したり、ソファを使用したりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や、家族の写真などを置いている。	
			(外部評価) 利用者の好みによって、仏壇、机、ソファ、たんす、手芸品、写真、花などが持ち込まれている。各居室には洗面台があり、また多くの居室に洋式トイレがあり、利便性も高く安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 何が障害となっているかを見極めて、出来る力を維持するような環境を整えている。	